

令和7年度 公共事業再評価調書

(区分) 国補 ・ 県単

1. 事業説明シート

事業名	農地整備事業 〔経営体育成基盤整備事業(国補)〕		事業箇所	笛吹市境川町大窪	地区名	大窪	事業主体	山梨県
計画期間	当初計画 H30~R4	現計画 H30~R7	変更計画 H30~R9	④特記事項(関連事業概要等) ・なし				
総事業費	400 百万円	430 百万円	600 百万円	⑤これまでの評価状況 ・なし				
①事業目的及び効果				(2) 事業位置図等				
<p>本地区は旧境川村の御坂山地北西斜面に位置し、水稻や養蚕が営まれていたが、野菜や果樹への転換が図られ、スイートコーン・もも・すもも・ぶどうを中心とした農業地帯である。しかし、地域内の基盤整備は十分ではなく、営農効率が悪いことに加え、獣害や安定的な水源がないことが課題である。</p> <p>また、近年では高齢化や後継者不足が深刻化し、耕作放棄地も増加してきているなど多くの課題を抱えている。</p> <p>このため農業基盤の整備を導入し農作業効率の向上、耕作放棄地解消を図る。また、農地中間管理機構を活用し新たな担い手への農地集積を行い、産地の維持を図っていく。</p> <p>□主要目標 ○農業生産力の向上 ・農業所得増加額：3,835千円/ha\geq810千円/ha※ (※評価基準値)</p> <p>□副次目標 ○農業用排水能力の向上 □副次効果 ○遊休農地の解消</p>								
②事業概要								
		現計画	変更計画					
区画整理		A = 7.8ha	A = 7.8ha					
鳥獣害防止施設		L = 1,574m	L = 1,574m					
畑地かんがい施設		A = 0ha	A = 7.0ha					
③全体計画								
		令和6年度まで	令和7年度 (評価実施年度)	令和8年度以降				
現計画	工事内容	区画整理A=7.8ha 鳥獣害防止施設 L=1,574m	付帯工 一式					
	事業費	400 百万円	30 百万円					
変更計画	工事内容	区画整理A=7.8ha 鳥獣害防止施設 L=1,574m	畑地かんがい施設 測量・設計	畑地かんがい施設 A=7.0ha				
	事業費	400 百万円	28 百万円	172 百万円				
※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。								

2.評価シート(1)

(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

(今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容)

①地域・住民の意向状況

これまで区画整理に取り組むことで、農地集積を推進し新たな担い手の確保に繋げてきたところである。

一方、用水の水源に乏しい同地区において、果樹の収量・品質を確保するためには、安定的な用水の供給が可能となる畑かん施設等の基盤整備が必要であり、早期の整備が求められている。

②産業・経済情勢

労務費・建設資材費の上昇

③国等の方針

なし

④上位計画・関連事業計画等

やまなし農業基本計画(令和6年1月策定)

⑤自然環境条件等

なし

⑥その他

なし

(2) 評価時点の費用対効果分析

項目		着手時点	変更計画時点
総事業費		400 百万円	600 百万円
工期		H30~R4	H30~R9
経済 効率 性	評価基準年	H29	R7
	費用	384 百万円	663 百万円
	建設費	384 百万円	663 百万円
	便益	598 百万円	1,178 百万円
	営農経費節減効果	429 百万円	442 百万円
	作物生産効果	145 百万円	654 百万円
	国産農産物安定供給効果	15 百万円	81 百万円
その他※	9 百万円	1 百万円	
B/C		1.6	1.7

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、地積確定効果、維持管理費節減効果

(3) これまでの計画変更等の概要

・物価高騰や労務単価の上昇を要因とする事業費の増。

・用水確保に向けた水源調査及び水利調整に日数を要したため、計画期間を令和7年度まで延期した。

	当初	現計画
総事業費	400百万円	→ 430百万円
計画期間	3年延長	

評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率
別表のとおり。
R7年度進捗率(現計画)100%→(実績)99.5%→(変更計画)71.3%

②進捗率実績が計画と相違している理由
計画のとおり進捗

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
畑地かんがい施設	170百万円の増	新たな担い手の確保と高収益作物への転換が図られたが、用水が不足するため、畑地かんがい施設を追加整備することによる事業費及び事業量の増。
合計	170百万円の増	

④事業期間の変更理由及び進捗予定
水源に乏しく一部用水に不足が生じ、新たな用水確保に向けて畑地かんがい施設整備をすることとしたため、工期を2年延長し、令和9年度の完了を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点
なし

(5) 環境負荷等への配慮

なし

(6) コスト縮減の可能性

なし

(7) 代替案立案の可能性

なし

(8) 所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他()

(理由)
果樹生産の強化を図り、農業経営の安定化を実現するのに不可欠な基盤整備であることから、事業を継続し、令和9年度の完了を予定している。

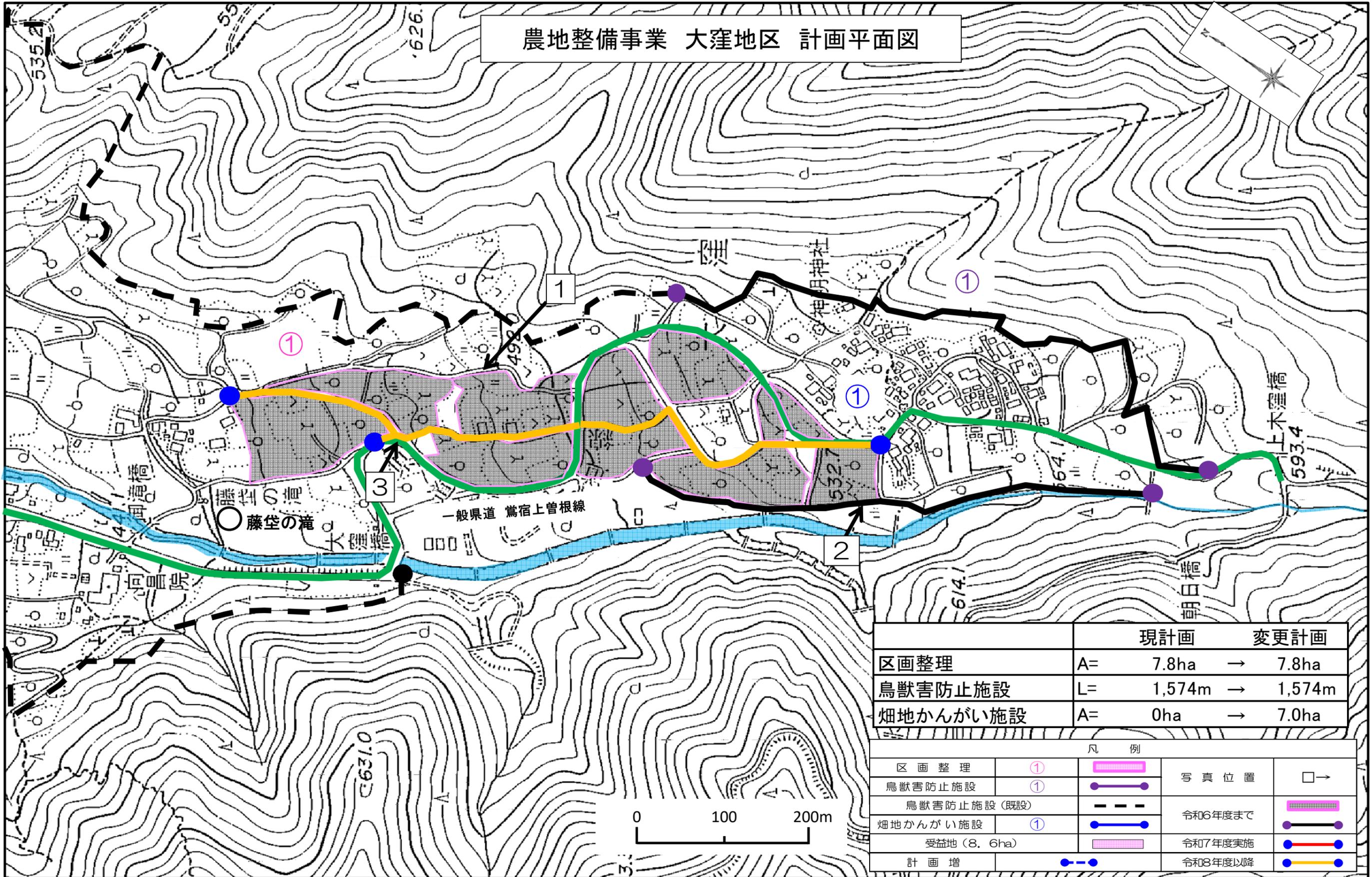
○別表-進捗率(事業費ベース)

算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100 単位：%

	年度	*H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	*R7	R8	R9
現	計画	6	32	44	68	76	84	92	100		
	実績	6.3	31.3	43.8	68.8	88	91	93	99.5		
	変更計画								71.3	95.0	100

*事業着手年度又は評価年度
*R7年度の実績は見込み

農地整備事業 大窪地区 計画平面図



	現計画	変更計画
区画整理	A= 7.8ha	→ 7.8ha
鳥獣害防止施設	L= 1,574m	→ 1,574m
畑地かんがい施設	A= 0ha	→ 7.0ha

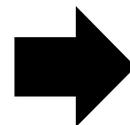
凡 例				
区画整理	①		写真位置	
鳥獣害防止施設	①		令和6年度まで	
鳥獣害防止施設(既設)			令和7年度実施	
畑地かんがい施設	①		令和8年度以降	
受益地(8.6ha)				
計画増				

3.添付資料シート(2)

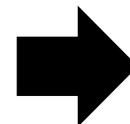
1 区画整理



- 整備前は農地が狭小で、耕作しづらい状態であった。また、耕作道に接していない農地が多いことから、機械による農作業が困難であり、耕作放棄地が広がっていた。



- 整備により区画が拡大し、耕作放棄地が解消され、営農条件も改善されたことにより、新たな担い手が参入し農地の集積が行われた。整備が完了した農地で果樹の作付けが開始された。



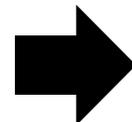
3.添付資料シート(3)

2 鳥獣害防止施設



整備前

• イノシシ・シカによる食害等の被害により、耕作者の営農意欲の低下を招いていた。



整備後

• 鳥獣害防止施設の整備により農地が保全され、農作物の被害が軽減された。

3 畑地かんがい施設

増額理由



地区の営農状況



• 区画整理を実施したことにより営農効率は向上したが、本地区は用水の水源に乏しく、安定した用水の供給が課題であった。



用水施設完成イメージ

• 畑地かんがい施設の整備により用水の安定供給を図り、果樹の収量・品質を確保する。

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H30	25,000	設計業務一式	4.2
R1	100,000	区画整理A=1.2ha	20.8
R2	50,000	設計業務一式、区画整理A=1.1ha	29.2
R3	100,000	設計業務一式、区画整理A=0.8ha、鳥獣害防止柵L=904m	45.8
R4	105,000	設計業務一式、区画整理A=4.7ha、鳥獣害防止柵L=670m	63.3
R5	10,000	換地業務一式、水源調査	65.0
R6	10,000	換地業務一式、水利調整	66.7
R7	28,000	設計業務一式、畑地かんがい施設A=3ha	71.3
R8	142,000	畑地かんがい施設A=4ha	95.0
R9	30,000	畑地かんがい施設 付帯工	100.0
合計	600,000		